

# てしかが歴史写真館 165



霧氷と摩周湖

## ダイヤモンド 郷土の自然 10 ～阿寒国立公園指定80周年～

初日の出を見て「良い年でありますように」と皆が願うものだ。そんな朝に外へ出てみると、目の前にキラキラした輝きを見ることがある。空気中の水分が凍り、そこに太陽の光が反射して見えるダイヤモンドダストだ。気象条件にもよるが、マイナス10℃を越えるあたりから発生する。冷え込む朝晩に、身近に発生しているが、なかなか気づかない。

川湯では「ダイヤモンドダスト in KAWAYU」という冬祭りが行われているが、このイベントでは人工的にダイヤモンドダストを発生させることができる。温泉熱により蒸発した空気中の水分を、ドライアイスで刺激してダイヤモンドダストを発生させるもので、川湯のしばれを利用したイベントだ。前回は「ゆきあかり」をメインテーマにして、約1,000個のスノーキャンドルを点灯。雪明かりで温泉街が彩られた。ロウソクに照らされた雪の色合いは、寒さの中で暖かさを感じるものだ。

霧氷は枝に雪や空気中の水分が付着し成長したもので、冬に樹木が花をつけたように見え、一瞬の輝きを見せる。霧氷が朝日を受け、白い樹形と青空のコントラストが作り出す風景や、夜間の冷え込みで釧路川の水分が蒸発して、けあらしとなり霧の中に浮かぶ風景など、氷と雪がさまざまな極寒の風景を作り出す。

屈斜路湖では全面結氷後、夜間の冷え込みで氷が収縮して亀裂が入り、昼間の気温上昇で氷が膨張し圧力がかかり、せり上がって氷丘ができる。高さは数十センチから1メートルを超えることもあり、長さは数キロにもなる。まさに寒さの力技である。

これからの季節、オホーツク海の流氷が接岸し、屈斜路湖・摩周湖も結氷し青色の湖面が氷の表情に変わる。弟子屈らしい冬の造形美が展開し、ダイヤモンドの風景が広がっていく。

てしかが郷土研究会(藤江)



「餅つき楽しいね！」

12月4日に行われた、昭栄小学校(高田孔平校長)の「閉校記念もちつき集会」での1コマです。町内小学校では唯一、地域と学校が連携した行事として餅つきを行ってきた同校。来春に閉校を控え、今回が最後の餅つきです。学校の歴史に思いを込めながら楽しみ、みんなでおいしくいただきました。

Public relations magazine

2015.1

No.725

# てしかが

### 主な内容

- 町長・議長・教育長 年頭あいさつ……②
- 未年のみんなが頑張ること……④
- 平成25年度決算報告……⑥
- 釧路・根室広域地方税滞納整理機構……⑨
- 防災ワンポイントコーナー……⑩
- 町税などの納期限/夜間納税窓口開設……⑫

2015.1  
てしかが

毎月1回発行 発行/弟子屈町 編集/まちづくり政策課 ☎482-2913 ☎482-2696  
〒088-3292 弟子屈町中央2丁目3番1号 URL <http://www.town.teshikaga.hokkaido.jp/>

R100 この広報紙には再生紙を使っています